



今月の話題：漸くコロナ禍が終息の気配であるが、まだまだ油断はできない。アフターコロナで心配されるのは高齢者層のフレイル対策ではないだろうか。フレイルとは意味としては「加齢により心身が老い衰えた状態」とされるが、2年近くも行動自粛が要請され、リモートワーク、テレワークに慣れるとどうということになるのか。加齢に加速度がついたように思われる。公園で幼稚園児が群れて遊んでいるのを見るとホッとす。 (伊藤誠三)

□ 本部便り：(金森捷三郎 記)

・コロナの急な下振れにより、事務所の当番が戻りつつあります。慎重を期し、出勤は基本的にはご本人の判断としています。事務所の活動は正常化に向かっています。
・拡大理事会は12/8(水)16:00からですが、密を避けるため場所と方法を検討中です。各部からの資料提出期限は12/1(木)といたします。

○次回拡大理事会：12月8日(木)16:00～の予定場所、開催手段等は後日確認し、再連絡する。

□ 建築部会：(岡本直 記)

・10/23 オンライン方式第5回サーツ寺子屋、坂本功先生による「木造住宅の地震被害とその耐震安全性確保について」の実施。新築建物の構造設計から既存住宅の耐震診断・補強に亘る広い範囲で、木造建築の耐震性確保に重要なポイントは何かを被害事例を交え、わかりやすく説明され、参加者から非常に参考になったとの声あり。

・10/7 小鹿紀英講師による文京区主催耐震セミナー、「東京で明日起こるかもしれない大地震に備えて」を不忍通りふれいあい館で実施。複雑な地下構造の東京や南関東では、過去にどのような地震がどの位の頻度で起きているか、その時への備えはどうするかが説明された。その夜、発生が懸念されると指摘された同位置でM6.1の地震が発生、参加者にはより強く印象に残ったと思う。

・宅地擁壁老朽化調査：近年の豪雨発生頻度の高さから、市民よりがけ地の擁壁安全性に関する相談が自治体に寄せられる。個々のケース毎に擁壁の老朽化度合いの判定が必要で多方面の専門知識が求められ、自治体から調査協力の相談を受けている。気候変動に関するレジリエンス化対策の一環として対処していきたい

□ 戸建住宅部会：(阿部市郎 記)

・10/14(木)16時～17時30分、会議室とZoom併用で部会開催。出席者11名。松村秀一先生より講話。

1. 技術支援事業：・GT南桜井タウンハウス大規模改修支援：9月末時点で、22棟中10棟完了。3棟工事中。月平均3棟施工で工事進捗、順調に進捗している。

・ウッドランド辰巳台第4回中大規模改修支援：①9月18日大規模修繕専門委員会完成検査、②9月25日大規模修繕専門委員会手直し確認検査。10/16第40回大規模修繕委員会で感謝状を受領)で業務終了。

・タウンハウス稲毛：居住者向けアンケート調査実施、11月21日結果への対応への打合せ予定

2. 調査研究事業：・前号報告のCLT WEB講座「隈研吾氏CLTを語る」の受講者の申し込みは312件受講申し込み(10/28現在)視聴感想…説得力のある隈研吾氏の特別講演、強い印象を受けました。本年の「CLT WEB講座」も期待にたがわぬ内容です。との感想あり。

・令和3年度林野庁補助事業「都市の木造化促進総合対策事業のうち・大径化した原木等を生かした利用の拡大。
i. 確認申請の軽減に関すること：住宅性能評価センター、住宅性能評価業務取り組みにつき10/4打ち合わせ実施。

ii 製材実証について、山形にてスギ製材実証、北海道よりカラマツJAS材、210、406製材が決定。10月より製材開始し、11月中の強度試験実施予定である。

・次回部会：11月18日(木)16時～17時30分

□ 集合住宅部会：(小畑晴治 記)

・新型コロナ感染症が不思議なほど収束しているが、この間の社会経済のダメージが反転に移る状況は見えない。日本の政界動向もさることながら、世界の政情や景気、紛争ばっ発には不穏な兆候すら感じられる。

今日の日本で、将来の日本(孫・子の代：ex50年後)にどう備えるべきか？高度経済成長期の頃までの社会的常識では、『『国家百年の計』を有能な政治家や都市計画家は考えてくれている』期待があったが、もはや今日、10年先20年先を踏まえた国の方向性の提案や5年後まで責任の持てる社会政策等がとてども打ち出せない時代になってしまった。現在、日本の総世帯数5400万世帯に対し住宅ストック数は6240万戸で、840万戸が「空き家」となっているが、年間50万の人口減少で更なる空き家増も避けられない。働き手である生産年齢人口(15～64歳)は年平均70万以上減少(過去9年間平均)という状況からは、縮小均衡での経済活動の持続がやっとならうという現実をしっかりと踏まえたい。

□ マンション管理組合支援事業部：(丸山和郎 記)

・緊急事態宣言解除後、年内終了予定物件のうち、パークハウス本郷真砂とファミリー春日部式番館が来年3月まで延期。この2件の今期予定差益の減少見込み。

・「長期優良住宅化リフォーム推進事業」の申請支援業務：前号報告の3団地のうち、契約済みのスカイビュー戸塚の第1段階の事前検討作業が10月に終わり、11月度はこの事前検討作業内容の報告説明会を実施する。

・コスモフォーラムすずかけ台駅前：改修実施設計に於ける積算額と実施施工数量に差額が生じた。実施設計段階で管理組合から提示された「JKセライダーU」(日本樹脂施工協同組合仕様：タイル剥落防止工法)の施工範囲数量と実施施工数量とに差異があり、精算増額が生じた。幸い設計時の予算総額と請負業者契約額との差額内で組合予算を超えずに納まったが、「修繕委員会の予算編成検討プロセスで、組合提示数量の確認業務において不注意項目があったため、組合提示の当初数量の積算費税込み9万円相当分をサーツが負う旨申し入れ、9月理事会で了承を得た。理事会後の住民向け報告会ではこの件につき、理事と修繕委員から「倫理観の高さを感じ入る。コンサル選びに間違いがなかった。」との評価を受けた。

□ 建築技術誌12月号(11月17日発売)サーツ欄記事

・木村博則：東西南北『人々と歩む建築の時代へ』

・サーツニュース坂本 功先生『木造住宅の地震被害とその耐震安全性の確保—10月23日(土)午後サーツ寺子屋オンライン講座』報告

□ 余滴：喜寿迎へまだこれからの残り菊 捷三郎